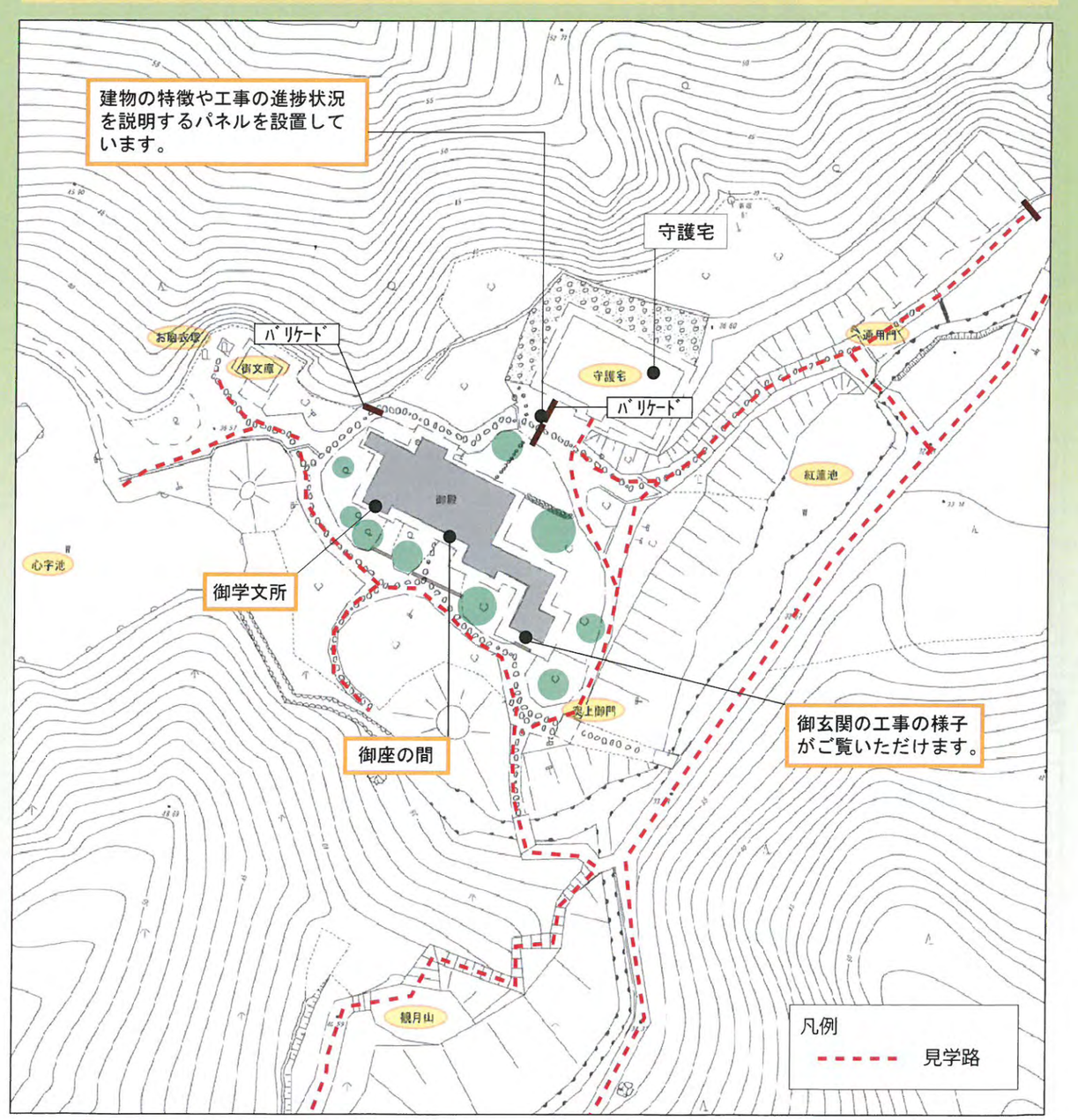
ふるさと文化財の森

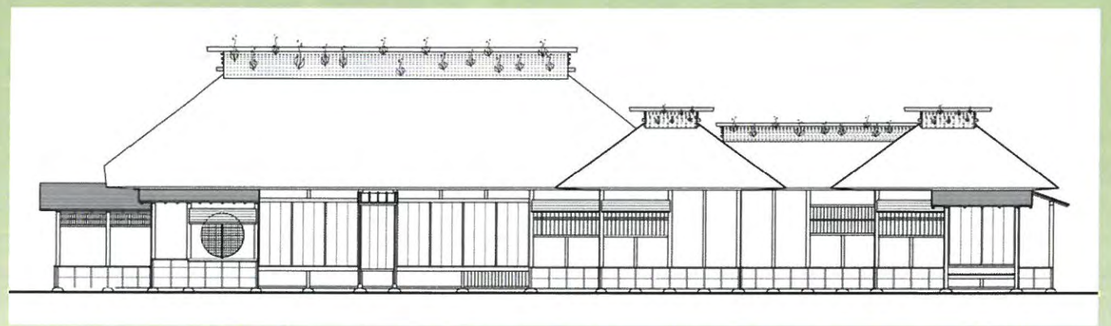
文化財建造物を修理し後世に伝えていくためには、木材や檜皮（ひわだ）などの資材の確保と、これに関する技能者を育成することが必要です。

文化庁では、「ふるさと文化財の森システム推進事業普及啓発事業」として、文化財建造物の修理に必要な資材のモデル供給林および研修林となる「ふるさと文化財の森」を設定しており、公益財団法人徳川ミュージアムと大能林業有限会社が共同所有する「徳川の森」のスギ・ヒノキ林が、平成26年3月24日に「ふるさと文化財の森」に設定されました。



工事に伴って見学路が一部制限されます。お客様にはご迷惑をお掛けいたしますがご了承ください。

西山御殿（にしやまごてん）　平成（へいせい）の大修理（だいしゅうり）のお話（はなし）



西山御殿 ―「水戸黄門」の名で知られている徳川光圀公が、元禄4年（1691）5月9日から同13年（1700）12月6日に亡くなるまでの10年間、藩主を退きご隠居様として過ごされた地です。
御殿は、元禄4年の正月から5ヵ月をかけて建てられました。御殿はその遺徳（いとく）を偲（しの）ぶため水戸藩によって光圀の没後も大切に保管されましたが、文化14年（1817）の野火により焼失してしまいました。しかし、その2年後の文政2年（1819）に第8代・齊脩（なりのぶ）が光圀公の隠居部分を再建したものです。

平成23年（2011）3月11日の東日本大震災で御殿は傾き、土壁もひびが入り、礎石のずれなどが生じました。2年の調査と準備を経て、平成25年7月から1年9か月にかけて約40年ぶりに御殿を半解体し、災害復旧工事を行います。
みなさまに工事のポイントをご説明します。

徳川ミュージアム
The Tokugawa Museum

平成 26 年（2014）11 月

解体工事や発掘調査による新たな発見

●棟札箱・棟札

解体工事によって棟札が収められていた箱が確認されました。中には文政２年の再建時に作られた棟札(縦108㎝、横26㎝、幅1.8㎝)が入っていました。棟札は現在、徳川ミュージアムに保管されています。

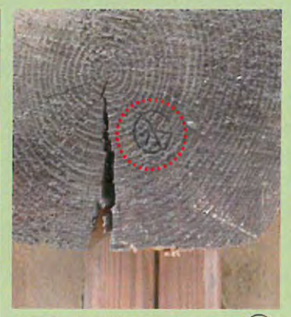
棟札箱

棟札

●墨書・刻印

部材の寸法、取り付け位置等を記した墨書が各部材から確認されました。また、徳川材（地元材）に㊌の刻印が押されていることが確認されました。

墨書「御用」



再建時の徳川材刻印「㊌」

●天井の工夫

天井を吊るすために、割竹を加工して吊木として利用していることが分かりました。

吊木（割竹）

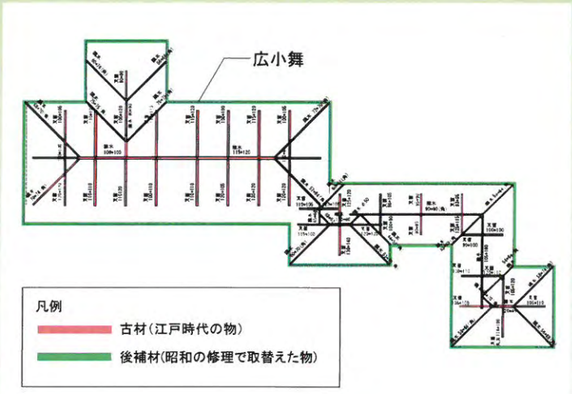
吊木（設置状況）

●発掘調査

揚屋工事に伴い、常陸太田市教育委員会による御殿床下の発掘調査が行われました。床下全体は、非常に丁寧に叩き固めて仕上げられていることが確認されました。

●江戸時代の古材の確認

解体調査を行った結果、小屋組と柱の上部等については、江戸時代の古材がほとんど残っていることが明らかになりました。



平成25年度の主な工事内容

●解体工事

解体工事によって過去の修理方法や江戸時代の部材などが明らかになりました。

屋根の解体

解体後の様子

●揚屋工事・木工事

破損の少ない部分については、解体せずに修理を行うため油圧ジャッキで建物を1m程持ち上げて修理しました。木工事では、柱の傾きの修正、傷んだ木材の除去と修理を行いました。

揚屋の様子

木工事作業

平成26年度の主な工事内容

●左官工事

小舞と呼ばれる下地を作り、荒壁塗を行い乾燥させます。土壁の材料は、解体工事で落とした土を利用します。その後、仕上げの中塗りを行います。

小舞掻き(下地作り)

荒壁塗

●屋根工事

茅葺き屋根は、屋根の下地を組み直して茅材を葺き上げていきます。最後にはさみで刈り揃えて仕上げます。

屋根下地

茅葺作業経過

木賊葺きの屋根材は、手割りした新しい杉材で葺替えを行います。

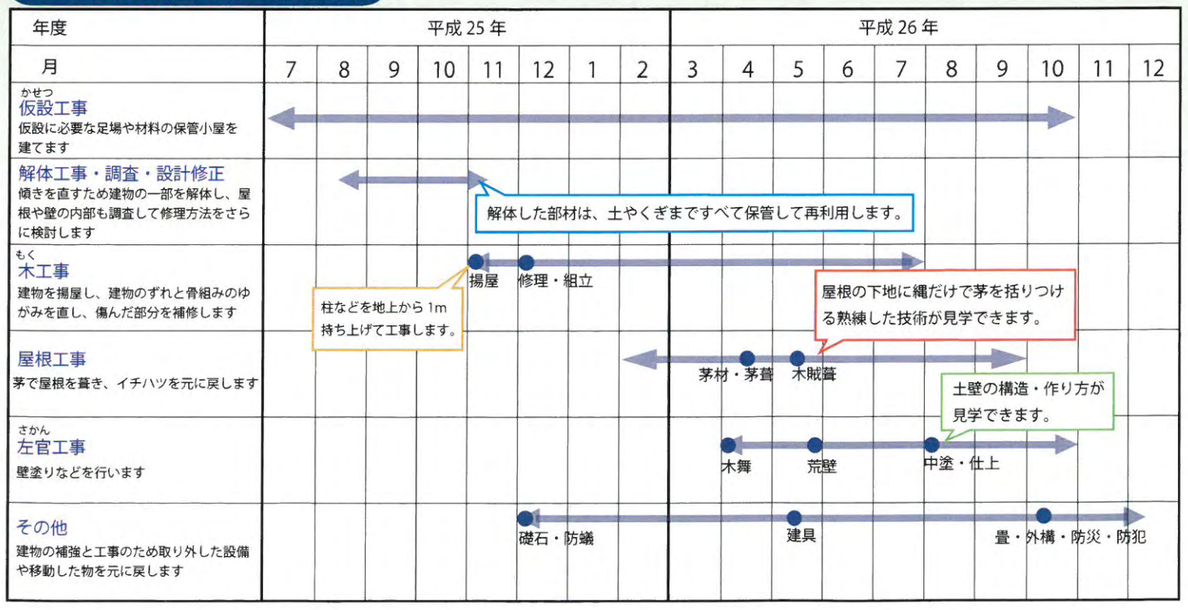
葺替え作業

葺替え完了(隅部)

●木工事(天井の修理)

地震の影響を受けて、天井は歪みや破損が見られました。天井板は補修し、破損した天井板を新しいものと取替えます。

天井板の修理作業

天井復旧作業

平成の大修理のあゆみ